福留章太　年譜

大正元年(1912)
12月３日、高知県土佐郡(現高知市)江ノ口町大川筋53番地イにて福留辰吉・つねの６人兄弟の五男として出生、五郎と名付けられる。
大正15年(1926)
３月16日、神戸市平野神田町64番地に転居。
昭和２年(1927)
４月、北神商業学校入学。
昭和７年(1932)
３月31日、同校を卒業、東京美術学校を受験するが失敗。
昭和８年(1933)
４月、東京美術学校油画科に入学、南薫造に師事。同級に岡田又三郎、杉全直らがいた。
東京市世田谷区経堂　伊藤武方(母方のいとこ)に住む。
昭和12年(1937)
７月、美校の同級生・杉全直、杉原正己、日向裕らとグループ展［貌］を結成、第１回展(銀座紀伊国屋画廊)を開催。その他、在学中［亜地社］にも参加。
昭和13年(1938)
３月24日、同校を卒業。
東京美術研究所の助手を勤める。
11月１日、東京市篠崎尋常高等小学校の図画教師となる。
昭和15年(1940)
３月27日～４月５日、第15回国展(東京府美術館)『真鶴海岸』で初入選、福留義介名義で出品
東京市本所区業平橋4-1 平野信一方に住む。
昭和16年(1941)
６月30日、篠崎尋常高等小学校を退職、東京美術研究所に勤める。
神戸市林田区池田広町188に転籍
昭和18年(1943)　31歳
東京市世田谷区三宿238 公文三二方に住む。
４月22日～５月２日、第18回国展(東京都美術館)『風景』褒状、『蓮』詩人に同姓同名がいたため章太の画名を用いる。
９月10日、応召により歩兵第39連隊に入営。
９月17日、満州第646部隊に転属。
昭和19年(1944)
５月２日、満州第５練習飛行隊に転属。
昭和21年(1946)
６月14日、福岡にて復員し、兄の家族の疎開先、鳥取県東伯郡旭村(現三朝町)本泉に移住する。
神戸市生田区西町43-2に籍を置く。
東京美術研究所に復職する。

一九三七年　母と

10月６日、山崎恭美子と結婚し山崎家に入籍する。旭村本泉の妻の実家に移る。
昭和22年(1947)　35歳
東伯郡(現倉吉市)上井町上井250 山田春義方に転居する。
４月12日～28日、第21回国展(東京都美術館)『ゆあみ』奨学賞『セリスト』『池畔』『山茶花』ボナールの影響を受けた表現を用いる。同会で伊藤廉の知遇を受ける。
５月20日、東京美術研究所を退職、東伯郡学校組合立緑ケ丘中学校の図画科教諭となる。
６月10日～30日、第１回美術団体連合展(毎日新聞社・東京都美術館)
９月18日～21日、倉吉で第１回目の個展(倉吉信用組合)22点、国画会の梅原竜三郎、久保守から紹介文を受ける。
10月11日、砂丘社の同人となり「砂丘」復刊第１号の〈前田寛治のフォルム〉を執筆。
10月14日～18日、米子市制20周年記念美術展(明道小学校)に砂丘社の同人として『蓮』を出品。
11月19日、長男・章介誕生。
この頃、末次雨城、古志太郎らと交遊を始める。
昭和23年(1948)
３月、「意匠」第４号に〈重箱〉を掲載。
４月１日～13日、第22回国展(東京都美術館)『蓮』『サボテン』

4月、末次雨城の主宰する俳句雑誌「松」5月号の表紙絵を描く。
5月25日～6月16日、第2回美術団体連合展(毎日新聞社・東京都美術館)『松林』

昭和24年(1949)

4月1日、倉吉町立西中学校に転任。
4月1日～16日、第23回国展(東京都美術館)『蓮』『海濱』会員に推挙される。
10月、山陰美術展(米子就将小学校～倉吉明倫小学校・山陰日日新聞社主催)『少女』『石のある港』
11月16日～20日、鳥取県美術工芸展(明倫小学校)『セリスト』
倉吉町堺町2丁目 音田幹也方に転居。

昭和25年(1950)

4月4日、長女・恭子誕生。
4月10日～25日、第24回国展(東京都美術館)『溝』『石材のある港』この頃から形態と色面が単純化され明確になる。
5月6日～サロン・ド・プランタン展『溝』招待出品。
5月2日～4日、近代名家洋画展(倉吉信用組合)の作品解説を書く。
6月10日、倉吉美術協会創設に参加。
9月27日～10月4日、国画会の若手で組織した型生派美術家協会に同人として参加、第1回型生派展(日本橋三越)『人形』『水蓮』『ラオコンのある静物』『河骨』主な同人は香月泰男、熊谷九寿、杉本健吉、須田尅太、日向裕、原精一ら。
10月25日～29日、倉吉美術展の創設に参加、洋画部門の審査にあたる。
第1回展『河骨』倉吉町長賞を受ける。

一九五四年 砂丘社展会場にて、左から、石井成海、津和野卓郎、福留、米本一郎、前田利三、波田野幸治

昭和26年(1951)

4月3日、右肺浸潤のため県立厚生病院に入院。
4月18日～5月3日、第25回国展(東京都美術館)『ラオコーンの破片のある静物』
5月25日～28日、第2回倉吉美術展(倉吉東中学校講堂)『溝』『石のある港』
11月20日～23日、鳥取県美術展覧会倉吉地区展(成徳小学校)『ざくろと壷』『ラオコンの破片のある静物』を無鑑査出品。

昭和27年(1952)　40歳

6月1日～4日、第3回倉吉美術展(倉吉東中学校講堂)『切株』『あぢさい』『海浜』
6月30日、病気のため教職を辞す。
11月24日、県立厚生病院を退院。

昭和28年(1953)

5月22日～25日、第4回倉吉美術展(倉吉東中学校講堂)『裸婦』2点

昭和29年(1954)

6月10日～13日、前田利三、米本一郎、山桝行雄らと倉吉美術協会を退会し、砂丘社(第4次)を再興、第1回展(労働会館)
10月7日～11日、第5回県展(倉吉東中学校)『子供』
この頃から倉吉カトリック教会に福留絵画研究所を開設する。

昭和30年(1955)

4月18日～5月3日、第29回国展(東京都美術館)『五輪塔』『雉子』
5月5日～10月10日、連載の新聞小説「街は夕焼け」草上渉(日本海新聞社)の挿絵を描く。
10月6日～10日、第6回県展(米子市明道小学校)『雉子』
11月10日～13日、第2回砂丘社(第4次)展(労働会館)『酒樽のある風景』『松』
12月3日～4日、福留章太さしえ展(倉吉信用組合)主催・日本海新聞倉吉支局。
倉吉市大正町1058-1(後に2-13)に転居。
この年「鳥取県立公園三朝東郷温泉スケッチ絵はがき」のために『南苑寺山門より三朝眺望』『重文蔵王権現像』を描く(前田利三、米本一郎も参加)

昭和31年(1956)

4月21日～5月6日、第30回国展(東京都美術館)『松』(倉吉市蔵)『樽のある風景』
10月1日、「倉吉市誌」刊行の編纂委員として芸術・文化部門を担当。
10月10日～14日、第7回県展(鳥取県立図書館)『廃石』審査員。

昭和32年(1957)　45歳

4月18日～5月4日、第31回国展(東京都美術館)『石の譜』『五輪塔』
東京都美術館後援会に作品を寄贈する。

昭和33年(1958)

4月27日～5月13日、第32回国展(東京都美術館)『人形』
鳥取市の小さき花園教会の礼拝堂の窓絵を制作。
9月15日、"形のある抽象は、すでに具象的な仕事になったという解釈も成立するのではないか。アンフォルメルには追いつめられたような感じを受けるが、作品の上での現われ方は内面的なものが解決してくれるでしょう。制作を含めた生き方として、生活や歴史や広い意味の宗教などが内面的な制作意欲と交流することを願い、つねに描くという差し迫った立場から自分を鍛え続けたい。"「アトリエ訪問・日本海新聞」これを機にアンフォルメルの作風に入る。

昭和34年(1959)

4月22日～5月8日、第33回国展(東京都美術館)『樹根 A』『樹根 B』
10月、第10回県展(鳥取市立体育館)『季節』

一九五九年　右は日向裕

昭和35年(1960)

2月3日～6日砂丘社小品展(倉吉大橋旅館ホール)『季節 2』『苔寺覚書 1』『苔寺覚書 2』
4月22日～5月8日、第34回国展(東京都美術館)『窯』『風』
5月、「因伯経済新報」新緑号、また「成徳婦人学級の手帳」の表紙絵を描く。
6月7日～11日、第1回全鳥取美術展(鳥取大丸)『古墳による 1』『古墳による 2』
10月、「因伯経済新報」中秋号の表紙絵を描く。
10月開催の第12回西日本医科学生綜合体育大会、漕艇・山岳競技大会目録表紙を描く。

昭和36年(1961)

1月16日～21日、東京で初めての個展(銀座文芸春秋画廊)
3月14日～19日、個展(鳥取大丸)抽象作品30点。
4月1日、鳥取県中学校社会科研究部が発行した教師のための歴史副読本「伯耆」の表紙絵『伯耆国三朝出土瓶器』を描く。
4月22日～5月8日、第35回国展(東京都美術館)『青の記号』『接点』
5月25日～28日、第8回倉吉市展(倉吉市役所市民ホール)『ひずみ』『自転空間』
6月6日～11日、第2回全鳥取美術展(鳥取大丸)『自転空間』
朝日ジャーナル6月25日号表紙に『青の信号』が掲載される。"この絵は、円を主題としたさいきんの連作のひとつです。作品にあらわれた円は、わたしの心の生き写しのようです。それはまた、わたしの現実の身もだえのあとかもしれません。それは、ときとして、うず巻き形をとることもあり、ギリシャ文字のガンマのような形になったりします。あとで気づきましたが、それは連鎖的に無限に拡大されていく性質をもった、ひとつの素形でもあり得ます。　そのために、表現は時間、空間、物質を三位一体とし、しかもそれらを超越した透明なもの―とらえられそうでとらえにくい存在―であってほしいと思い、色彩は、あくまで青の単色としました。ほかの色の入り込む余地はさなそうです。　現代絵画は、立体派以来、いくたの変容と技法の変革をとげながら、しかもはげしい混とんの中にあるようです。それだけに作家は、メタフィジックな立場を確立しなければならないと思います。"「今週の表紙　青の記号」
7月5日～10日、個展(倉吉民芸画廊)

一九六一年　文芸春秋画廊　第1回個展

昭和37年(1962)　50歳

1月15日～21日、個展(文芸春秋画廊)

4月22日～5月8日、第36回国展(東京都美術館)『典』『舞曲』

6月1日、鳥取県立保育専門学院非常勤講師(図画工作)に就任。

6月、第3回全鳥取美術展(鳥取大丸)『深まる空間』

12月開催の第11回鳥取県学校図書館研究大会「発表要項」の表紙絵を描く。

昭和38年(1963)

1月21日～27日、個展(文芸春秋画廊)

4月22日～5月8日、第37回国展(東京都美術館)『ひらく点』『かたまる点』この作品から黄金比を構図に取り入れる。

6月、第4回全鳥取美術展(鳥取大丸)『開』

昭和39年(1964)

1月20日～25日、個展(文芸春秋画廊)『規定する場』ほか。

4月22日～5月8日、第38回国展(東京都美術館)『連なる眼』

6月21日～30日、個展(民芸画廊)

8月28日～9月2日、個展(米子高島屋)抽象の初期の作品から『連なる眼』のシリーズまで。

12月7日～13日、個展(大阪ナルミヤ戎橋画廊)『連なる眼』のシリーズ、国画会の須田尅太が紹介文を書く。

昭和40年(1965)

1月25日～30日、個展(文芸春秋画廊)この時、国画会の張替正次に案内され日光東照宮へ色彩研究に行く。

4月22日～5月8日、第39回国展(東京都美術館)『展帰 A』『展帰 B』この作品から色数を限定し、直線による幾何学抽象に移行する。

9月24日～29日、個展(米子高島屋)『連なる眼』『展帰』のシリーズ

12月10日～18日、個展(倉吉タイヨー)具象小品。

昭和41年(1966)

3月22日、長男・章介、大学受験の旅先京都にて夭折する。

4月22日～5月8日、第40回国展(東京都美術館)『衝』

5月27日～29日、個展(境港市・飛鳥)主催・境港市文化協会。

10月27日～30日、第13回倉吉市展(倉吉福祉会館)『展帰』

11月11日～16日、個展(米子高島屋)

この年、関西国画会展開設に参加。

昭和42年(1967)　55歳

4月22日～5月8日、第41回国展(東京都美術館)『構える A』『構える B』この作品から、曲・直線の混交した作風となる。

8月3日～11日、第2回関西国展(京都市美術館)『増幅するもの A』『増幅するもの B』委員となる。

10月10日～15日、第11回県展(米子高島屋)『増幅するもの』招待

11月22日～30日、個展(倉吉タイヨー)具象小品。

一九六八年　国画会関西選抜展(倉吉タイヨー)
前列須田尅太、後・三島右

12月23日～26日、第14回倉吉市展(倉吉福祉会館)『増幅する』

昭和43年(1968)

1月25日～31日、前田利三らと砂丘社(第4次)展を再開(倉吉タイヨー)

4月22日～5月8日、第42回国展(東京都美術館)『増幅する』

7月1日～8日、第1回国画会関西選抜展(倉吉タイヨー)を企画。

8月6日～15日、第3回関西国展(京都市美術館)『増幅する』

10月15日～20日、第12回県展(鳥取大丸)『増幅する』招待。

11月29日～12月2日、第15回倉吉市展(倉吉福祉会館)『アラフラ海の貝』この作品を契機に色彩が多様になる。

昭和44年(1969)

4月22日～5月8日、第43回国展(東京都美術館)『増幅する 6』

6月6日～9日、第16回倉吉市展(倉吉福祉会館)『ヒメゴボウラ貝による』

8月17日～27日、第4回関西国展(京都市美術館)『増幅するもの 7』『増幅するもの 8』

10月、第13回県展(倉吉福祉会館)『ヒメゴボウラ貝による』

昭和45年(1970)

1月、坪井清足(考古学者)を倉吉の文化財関係者に紹介し、伯耆国分寺跡の発掘調査の進展に寄与する。

3月4日～13日、個展(鳥取ギャラリー八千堂)具象小品約20点。

4月11日～20日、個展(民芸画廊)具象小品。

4月22日～5月8日、第44回国展(東京都美術館)『増幅する 7』

6月22日～27日、個展(文芸春秋画廊)『増幅する』のシリーズ。

8月1日～11日、第5回関西国展(京都市美術館)『増幅する 8』『増幅する 9』

8月　日～25日、欧米に研究旅行。

10月9日～14日、第14回県展(米子高島屋)『増幅する』招待。

11月、藤原啓との競作展(境港)

12月３日～21日、渡欧作品展(倉吉福祉会館)30数点。

昭和46年(1971)

４月１日、鳥取女子短期大学幼児学科教授に就任。

４月22日～５月８日、第45回国展(東京都美術館)『増幅する 11』

６月２日～５日、第18回倉吉市展(倉吉福祉会館)『雨后のトレド』

８月３日～15日、第６回関西国展(京都市美術館)『増幅する 12』

10月12日～17日、第15回県展(鳥取大丸)『サンタ・マリア・ノベラ寺にて』審査員。

11月20日～25日、砂丘社展(倉吉タイヨー)『栗とあけび』『雨后のトレド』

11月22日～28日、個展(鳥取テルミー画廊)具象小品。

12月13日～19日、第１回国画三人展(梅田阪急)宗像逸郎、張替正次と共に、『栗とあけび』ほか具象小品。

一九七一年　国画会三人展会場にて、左は張替正次

昭和47年(1972)　60歳

４月22日～５月８日、第46回国展(東京都美術館)『増幅する 13』会務委員(49回まで)となり、この回の総合陳列委員長を務める。

５月21日～24日、第19回倉吉市展(倉吉福祉会館)『トレド風景』

５月23日～28日、関西国画会展(名古屋ギャラリーはくぜん)

７月20日～28日、個展(鳥取美術)具象小品。

７月23日～８月４日、第７回関西国展(京都市美術館)『増幅する 14』

10月10日～15日、第２回国画会三人展(梅田阪急)『泰山木』ほか。

11月５日～12日、第16回県展(鳥取県立博物館)『増幅する 11』審査員。

昭和48年(1973)

３月20日～26日、個展(米子ギャラリーなかじま)具象小品、妹尾輝雄が紹介文を書く。

４月22日～５月８日、第47回国展(東京都美術館)『増幅する 15』

５月22日～27日、関西国画八人展(名古屋ギャラリーはくぜん)宗像逸郎、小牧源太郎、細谷重雄、尾田龍、石橋繁雄、須田尅太、沢野岩太郎。

７月　日～27日、個展(高知市四国画廊)35点

７月22日～８月３日、第８回関西国展(京都市美術館)『増幅する 15』『増幅する 16』

10月１日～10日、第12回砂丘社展(民芸画廊)『蓮』『香住風景』

10月１日～４日、第20回倉吉市展(倉吉福祉会館)『増幅する 14』

11月８日、「倉吉市史」刊行の編纂委員として芸術部門を担当。

11月17日～22日、第17回県展(鳥取県立博物館)『増幅する』招待。

この頃、倉吉博物館建設のために尽力し、翌年の開館以後は協議会委員を勤める。

昭和49年(1974)

４月22日～５月８日、第48回国展(東京都美術館)『増幅する 17』

７月６日～９日、第21回倉吉市展(倉吉博物館)『増幅する 16-B』

７月27日～８月８日、第９回関西国展(京都市美術館)『増幅する 13』

６月28日～７月３日、第３回国画会三人展(梅田阪急)

10月１日～６日、第18回県展(鳥取県立博物館)『増幅する』審査員

昭和50年(1975)

４月22日～５月８日、第49回国展(東京都美術館)『増幅する 18』

６月26日～29日、第22回倉吉市展(倉吉博物館)『増幅するもの』

７月26日～８月７日、第10回関西国展(京都市美術館)『増幅する 18』

10月１日～６日、第19回県展(鳥取県立博物館)『増幅する 19』無鑑査。

10月24日～29日、個展(倉吉工芸店)具象小品。

昭和51年(1976)

４月28日～５月14日、第50回国展(東京都美術館)『増幅する 20』この作品からフォルムが多様化する。

５月25日～27日、第23回倉吉市展(倉吉博物館)『増幅する 19』

６月、鳥取県立保育専門学院「創立20周年記念誌」の表紙絵を描く。

７月24日～８月５日、第11回関西国展(京都市美術館)『増幅する 20』

11月６日～14日、砂丘社展(倉吉タイヨー)

11月16日～25日、美術学校同期生で結成したGroup13に参加、第１回展(銀座和光)ここには具象小品を出品する。

12月３日～８日、個展(倉吉工芸店)具象小品26点。

昭和52年(1977)　65歳

４月28日～５月14日、第51回国展(東京都美術館)『二つのもの』

７月７日～10日、第24回倉吉市展(倉吉博物館)『増幅する』

７月22日～８月３日、第12回関西国展(京都市美術館)『二つのもの 1』『二つのもの 2』

９月18日～27日、第21回県展(鳥取県立博物館)『作品』無鑑査。

11月18日～23日、個展(倉吉工芸店)具象小品29点。

12月、初孫が誕生し、画風に変化がおこる。

昭和53年(1978)

４月10日～15日、Group13第２回展(銀座和光)『雪の伯耆大山 A』

4月25日～5月10日、第52回国展(東京都美術館)『アントロポス』このシリーズから主題を人間に求め、豊かな色彩と有機的でユーモラスな形態を持つ抽象となる。
7月6日～9日、第25回倉吉市展(倉吉博物館)『二つのもの』
7月25日～8月3日、第13回関西国展(京都市美術館)『アントロポス 1』『アントロポス 2』
9月15日～24日、第22回県展(鳥取県立博物館)『二つのもの 2』審査員。
11月22日～27日、個展(倉吉工芸店)具象小品28点、ガラス絵を試みる。
この頃、日本海新聞や山陰中央新報のカットを盛んに描く。

昭和54年(1979)

4月25日～5月10日、第53回国展(東京都美術館)『アントロポス 3』
5月31日～6月3日、第26回倉吉市展(倉吉博物館)『アントロポス』
7月24日～8月2日、第14回関西国展(京都市美術館)『アントロポス 3』
9月12日～17日、個展(鳥取美術)具象、抽象など30点。
9月15日～24日、第23回県展(鳥取県立博物館)『アントロポス 2』無鑑査。
12月7日～12日、個展(倉吉工芸店)具象小品25点。

昭和55年(1980)

4月5日～20日、郷土作家による中央美術展出品作品展(テレビ高知・高知県郷土文化会館)『アントロポス 3』
4月24日～5月10日、第54回国展(東京都美術館)『アントロポス 4』
5月29日～6月1日、第27回倉吉市展(倉吉博物館)『アントロポス 3』
8月20日～30日、第15回関西国展(京都市美術館)『アントロポス 4』
9月14日～23日、第24回県展(鳥取県立博物館)『吟遊するアントロポス 5』審査員。
10月31日～11月5日、個展(倉吉工芸店)具象小品24点。
11月　日～23日、個展(鳥取美術)。

昭和56年(1981)

4月26日～5月12日、第55回国展(東京都美術館)『吟遊するアントロポス 6』
5月28日～31日、第28回倉吉市展(倉吉博物館)『アントロポス 4』
8月12日～23日、第16回関西国展(京都市美術館)『吟遊するアントロポス 5』『吟遊するアントロポス 6』
10月10日～17日、第25回県展(鳥取県立博物館)『子を抱くアントロポス』無鑑査。

昭和57年(1982)　70歳

4月27日～5月12日、第56回国展(東京都美術館)『子を抱くアントロポス 7』
6月3日～8日、個展(鳥取大丸)具象小品26点。
6月17日～20日、第29回倉吉市展(倉吉博物館)『吟遊するアントロポス 6』
8月14日～25日、第17回関西国展(京都市美術館)『子を抱くアントロポス 7』
9月12日～21日、第26回県展(鳥取県立博物館)『子を抱くアントロポス 5』審査員。

昭和58年(1983)

3月24日～29日、Group13第4回展(銀座松坂屋)
4月25日～5月7日、現代抽象展(銀座三越)『二つのもの B』
4月27日～5月12日、第57回国展(東京都美術館)『子を抱くアントロポス 5』
8月12日～21日、第18回関西国展(京都市美術館)『子を抱くアントロポス 6』
9月4日～12日、第27回県展(鳥取県立博物館)『踊るアントロポス 8』無鑑査

昭和59年(1984)

1月、骨折のため入院。
3月22日～27日、Group13第5回展(銀座松坂屋)
4月20日、急性肺炎のため県立厚生病院に入院、その後入退院を繰り返す。
4月25日～5月10日、第58回国展(東京都美術館)『踊るアントロポス 8』
8月14日～23日、第19回関西国展(京都市美術館)『踊るアントロポス 8』
9月15日～24日、第28回県展(鳥取県立博物館)『短大の見える風景』審査員。

昭和60年(1985)

3月31日、鳥取県立保育専門学院非常勤講師を退任。
5月31日～6月9日、第32回倉吉市展(倉吉博物館)『短大の見える風景』
8月13日～22日、第20回関西国展(京都市美術館)『工事するアントロポス 9』『吟遊するアントロポス 6』
11月2日～6日、第29回県展(鳥取県立博物館)『工事するアントロポス 9』無鑑査。
10月12日～19日、個展(倉吉工芸店)具象小品28点。

昭和61年(1986)

3月、病気のため鳥取女子短期大学幼児学科教授を退任。
3月27日～4月1日、Group13第7回展(銀座松坂屋)
4月23日～5月7日、第60回国展(東京都美術館)『工事するアントロポス 9』
9月14日～23日、第30回県展(鳥取県立博物館)『梅雨あがりの団地風景』審査員。

昭和62年(1987)　75歳

3月26日～31日、Group13第8回展(銀座松坂屋)
7月3日～12日、第34回倉吉市展(倉吉博物館)『働くアントロポス』
8月13日～22日、第22回関西国展(京都市美術館)『働くアントロポス』
10月4日～13日、第31回県展(鳥取県立博物館)旧作『町の風景(カルティエ・ラタン)』無鑑査。

昭和63年(1988)

3月24日～30日、Group13第9回展(銀座松坂屋)に出品、3点

4月23日～5月7日、第62回国展(東京都美術館)旧作『アントロポス二つのもの(原題・二つのもの 2)』

6月24日～7月3日、第35回倉吉市展(倉吉博物館)旧作『アントロポス二つのもの(原題・二つのもの 2)』

8月13日～22日、第23回関西国展(京都市美術館)旧作『二つのもの B』

11月4日、県立厚生病院にて急性肺炎のため逝去。

平成元年(1989)

4月23日～5月7日、第63回国展(東京都美術館)『アントロポス 4』を遺作出品。

6月6日～11日、第63回国展(大阪市立美術館)『ヒメゴボウラ貝による』『構える A』『増幅する』『二つのもの』『二つのもの 2』『アントロポス 3』『アントロポス 4』『吟遊するアントロポス 5』『吟遊するアントロポス 6』『踊るアントロポス 8』を遺作出品。

8月15日～24日、第24回関西国展(京都市美術館) 大阪展と同じ作品

(前田明範 編)

資料調査協力 (敬称略)

東京芸術大学芸術資料館	五味美里
国立文化財研究所	山梨絵美子
鳥取県立博物館	三谷巍
名古屋市美術館	山田諭
国画会	